



## 孔子の言葉 (読書の中より)

7月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2023年7月1日(土)

- (1) 曾子曰く、吾、日に三たび吾が身を省りみる。  
人の為に謀りて忠ならざるか、朋友と交わりて信ならざるか、習わざるを伝うるか(小さな自分でいいのか)
- (2) 子曰く、巧言令色には鮮なし仁
- (3) 学んで時に之を習ふ、亦 説ばしからずや
- (4) 朋、遠方より来たる有り、亦楽しからずや
- (5) 君子は本を務む、道立ちて道生ず(問題の本質を見極める)
- (6) 学べば固ならず(新しいものを取り入れる)
- (7) 過ちては、則ち改むるに憚ること勿れ
- (8) 終りを慎み、遠きを終う(未来へ)
- (9) 事に敏(すぐやる)
- (10) 慶喜公がすでに大政を奉還されたからには、義を守り政治に関係すまいと決心した(洪沢)
- (11) 大隈重信だけは私と同じやり方で、来るものは拒まず、誰にでも気やすく会って面談しているが、その他には門戸開放主義の方はあまりいないようだ(洪沢)
- (12) 西郷には常々他人の利益をはかってやろうという親切心があった(洪沢)
- (13) 過去に執着しない、死んだ子の年を数えない(洪沢)
- (14) 学んで思わざれば則ち罔し、思いて学ばざれば則ち殆し(学ぶと考える)
- (15) 之を知るを之を知ると為し、知らざるを知らざると為す(知識の棚卸)
- (16) 義を見て為さざるは、勇無きなり
- (17) 人の己を知らざることを患えず、己の人を知らざることを患う
- (18) 親しんでも狎れるな、周しみて比らず、人間には風度が大切だ
- (19) 知っていることは知っていると言ひ、知らないことは知らないと言う
- (20) 酒は量なく、ただ乱におよばず
- (21) 角が必要、あまり円いと転びやすい
- (22) 正しいことをするには他に屈してはならない、時期の到来を待て
- (23) 秀吉は晩年において礼の本質を忘れた
- (24) 君子は言に訥にして、而して行ないに敏ならんことを欲す
- (25) 自らできないことをしゃべりたてるな、ほらを吹いてはいけない
- (26) 岩倉具視は、策略はあったが、決して口先だけの人ではない
- (27) 儒教は支配者に都合のよい差別思想とも言える、しかし孔子はそんなレベルを気にしていない

- (28) お父さんが偉く、皇帝が最も偉いという国の支配者にとっては理想的な宗教である。それを孔子は世の幸せと考えているのだ
- (29) 儒教は先祖崇拝をベースにした差別的な思想、それが全体の幸せ
- (30) 儒教は皇帝のための宗教であるとは結果論である
- (31) 朝に道を開けば夕に死すとも可なり、永遠は現在の一瞬にある
- (32) 利に放りて行えば怨み多し
- (33) 子曰、賢を見ては斉しからんことを思い、不賢を見ては内に自ら省みる
- (34) 子曰、徳は孤ならず必ず隣あり
- (35) 孟之反、その馬に鞭打って曰わく、後れたるに非ず、馬進まざるなり
- (36) チャールズ・ダーウィンは、人間と動物の長い歴史を見ると、お互いに助け合う方法を体得したものが繁栄してきたと言っている
- (37) アル・カポネとミルト・ヒルトン
- (38) 回や其の心三月仁に違わず、その余は則ち日月に至るのみ
- (39) 子貢(貨殖、魯、衛の宰相)、子路(勇敢)、子夏(魏の文公の師)
- (40) 礼の教えを強調ほど、音楽(心)をやる(礼は形式に流れやすい)
- (41) 君子は義に喻り、小人は利に喻る
- (42) 君子は和して同せず、小人は同じて和せず
- (43) 君子はこれを己に求め、小人はこれを人に求む
- (44) 君子の過は日月の食、小人の過ちは必ず文る
- (45) 君子は行ないで示し、小人は舌でいう

参考：(司馬遷史記 徳間書店)、(孔子 論語)、  
(孔子、渋沢栄一著 ディスカヴァ EBOOK 選書)、  
(男の論語 童門冬二著 PHP 文庫)、  
(超訳論語 許成準 彩図社)、  
(一番わかりやすい現代語訳論語 下村湖人外 古典教養文庫)、  
(孔子・老子・釈迦「三聖会談」諸橋轍次 講談社)